（別紙1）　　令和6 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0790300867		
法人名	株式会社縁寿		
事業所名	グループホーム縁寿の園　たき桜		
所在地	福島県郡山市中田町赤沼字瀬戸65-1		
自己評価作成日	令和7年9月17日	評価結果市町村受理日	令和8年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253　福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和7年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「ひとりひとりの今のスマイルのために真心込めた旬のサービスを提供する」という理念のもと、ご入居者の気持ちに寄り添い、安心・安全な生活が送れるよう、質の高いケアサービス提供に努めている。2ユニット合同での季節行事や誕生会を企画し、ご入居者同士の交流の場を設けたり、ご家族にも協力していただき外出支援等、楽しい時間を共に過ごせるような工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「和」を大切にしたサービスを理念としている。社是、経営基本方針、行動指針一五つのテストーを朝礼で唱和し、職員全員で共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1.地区町内会（自治会）に加入し、回覧板で地域の情報を共有したり、行事等へ参加している。 2.事業所周辺の散歩をしたり、近所の住民と挨拶を交わすなど日常での交流も大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	1.運営推進会議を通して、事業所内でのご入居者の様子やヒヤリハット、事故報告などを行い、認知症の方への理解や支援の方法について情報を発信している。 2.事業所近隣の町内会と災害時連携協定を結び、災害時には避難の協力、または地域の避難拠点となることも視野にいれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	1.2カ月に1回事業所内で対面で開催し、様々な分野の方から広く意見や情報をいただき、サービスの向上に活かせるよう努めている。 2.会議で出た課題については職員と共有し改善やサービスの実践に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険や生活保護などの担当課とはメールや電話でのやり取りが多いが、月に数回は窓口に出向き担当者と話す機会を作っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1.毎月チェックシートを用いて介護サービスの現状をユニットごとに確認している。 2.「身体拘束等適正化委員会」を設け、3カ月に1回会議を行い、チェックシートをもとに拘束のないケアについて話し合っている。 3.内部勉強会を開催し、理解を深め身体拘束ゼロのケアを実践している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	1.「虐待防止対策委員会」を設け、定期的に会議を行い、虐待につながるようなケアが行われていないか話し合っている。 2.内部勉強会を開催し、理解を深め、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1.現在、「成年後見制度」を活用しようと手続きを進めているご入居者がいるが、権利擁護に関する制度についてはさらに学ぶ機会を持つよう努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	1.契約時には丁寧な説明をを行い、ご家族やご本人に不明な点や疑問点などが無いか確認をしている。 2.解約時にも、ご家族やご本人が理解・納得できるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1.日頃の関わりの中で話を聞いたり、面会時にご家族に話されたり、ご入居者が意見や要望を話しやすい環境を作っている。 2.定期的に介護サービス相談員が来園し、意見や要望を話せる機会を設けている。 3.あげられた意見・要望は役席会議やユニット会議で検討し、本部へ報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1.話しやすい職場環境作りに努め、日常業務やユニット会議の中で意見や提案を聞く機会を設けている。 2.職員からの意見や提案は役席会議で精査し、管理者会議につなげ、運営に活かすようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1.個別面談で職員の状況を把握し、悩みや問題を解決できるよう努めている。 2.管理者会議を通して給与水準や労働時間などについて話し合い、働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修会を行い、介護に携わる者としての知識やマナー、様々な制度について学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加し、同業者と交流する機会を作り、意見交換・情報交換などおこなっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事業所見学や事前調査時に現状を把握するためご本人の不安や希望などを傾聴し、話しやすい雰囲気作りに努め、生活歴等の情報を収集・聞き取りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所見学や事前調査時に現状を把握するため、ご家族の困りごとや心配ごと、要望等を聞き取り、施設入居への不安を軽減できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	1.ご本人とご家族が必要としているサービスを見極め、最善のサービス提供に努めている。 2.入居初期は日々変化が著しい場合があるため、柔軟な対応に努めている。 3.大きな変化があった場合はご家族へ連絡し、他のサービス利用も案内している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1.日常生活での家事等を一緒に行ったり、季節の行事を楽しんだりしながら、ご本人の出来る事・やりたい事を見つけ、共に暮らすパートナーとなるように努めている。 2.ご入居者が介護されるだけの立場で無いことを実感できるよう、感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1.日々の暮らしの出来事や気づきの情報を定期的にご家族にお伝えし、離れていても共にご入居者を支えていく関係を築いている。 2.月々の行事などへの参加を声掛けし、一緒に思い出作りができるような機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	1.親戚や友人・知人の面会も受け入れ、馴染みの関係が継続できるよう支援している。 2.お墓参りや外食など、ご家族との外出やご自宅への外泊なども行えるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1.家事や行事、日常の生活を通してご入居者同士の接点を作るよう努めている。 2.ご入居者同士の関係性は日によって異なるが、席の配置を工夫したり、職員が介入し円滑にコミュニケーションが図れるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	1.契約終了後も連絡があれば適切に対応し、支援する体制を整えている。 2.他事業所や病院等に移動した後もご家族や担当者と情報共有している。 3.退居後も安心して生活が送れるよう必要に応じて支援していく。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1.どのように暮らしていきたいか普段の会話等からくみ取り、ご本人の希望や意向の確認に努めている。 2.意思の疎通が困難な場合は、『心身情報シート』を用いて検討し、ご本人の願いをくみ取るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1.ご本人やご家族からお話を伺い、情報を収集している。 2.担当ケアマネ―ジャー等から情報を提供していただき、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の記録や毎日の申し送りを通して、職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1.ケアプラン作成の際は、ご本人・ご家族からの意向確認を行っている。 2.モニタリングを基にカンファレンスを開催し、現状を共有し、職員間で意見を出し合い意向に沿ったケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1.日々の生活状況や出来事、ご入居者の声を記録し、職員間で共有できるようにしている。 2.身体状況の大きな変化など、ケアプランの変更が必要なときは都度カンファレンスを開催し見直しを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	経営基本方針でもある「旬のサービスの提供」を心掛け、それぞれのご入居者にあった柔軟な支援に取り組んでいきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	豊かな生活の実現に向けて地域資源の情報収集を行い、地域の夏祭りやオレンジカフェに参加する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1.入居時に、現在のかかりつけ医か事業所の協力医の訪問診療に移行するか選択していただいている。 2.専門医の受診の際は、状態を書面にまとめ、ご家族を介して主治医に伝えている。 3.診療の結果は電話やLINEで報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師が来園するので、心身状態の報告を行い、相談や助言をいただき適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	1.入院時は入院時情報提供シートを医療機関に即日提供するよう心掛け、相談員ともこまめに連絡を取り合っている。 2.退院時はスムーズに施設生活に戻れるように、病院関係者と情報交換行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	1.入居時に重度化介護と看取りについての指針を説明し、現時点での意向確認を行っている。 2.重度化した際は、主治医と連携を図りながらご家族に説明し、ご本人とご家族が望む看取り支援に努めている。 3.重度化介護と看取りの内部研修を行い、職員の心構えや看取りのケア、ご家族へのフォローなどについて学んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスの際に急変時の対応の再確認を行ったり、不明な点があれば、医師や看護師へ相談できるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1.水害や火災、夜間想定の火災や地震など様々な内容で定期的に防災訓練を実施している。 2.消防署立ち合いのもと、年1回地域の方との合同避難訓練を実施している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1.尊厳やプライバシーに配慮し、表情や言葉遣い、声のトーンに気をつけながらケアをしている。 2.接遇についての勉強会を行い、職員全員で共有する機会を設けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1.日常生活の中でおやつやレクなど、本人の希望を確認し、選択したり自己決定ができる機会を設けている。 2.意思表示がなかなか難しい方でも筆談やジェスチャー、表情を読み取るなどして希望を叶えられる様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1.ご入居者に寄り添い、楽しみをもって過ごせるようペースを崩さず無理のない支援を心掛けている。 2.休みたい時は希望に沿ってゆったりと過ごしていただいている。 3.なるべく希望に沿うよう支援しているが、管理上すべてに応じられない場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1.毎朝、洗面台にブラシを用意し、声掛けや一部介助で整髪や洗顔を行っている。 2.定期的に訪問の理容師に来園いただき、希望者は散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	1.食事は配食会社のチルド食を利用している。 2.定期的に特別メニューを設け、ご入居者の好物や季節に合った食事やおやつを提供している。 3.声掛け・見守りを行い、安全に楽しく食事ができるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1.食事量や水分量は毎回確認し、記録に残している。 2.自力摂取が困難な方は介助を行っている。 3.摂取量が少ない方は医療連携を行い、栄養補助食品を提供したり、ゼリーや好きな飲み物を提供する等の工夫をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1.毎食後、洗面所へ誘導し、口腔ケアが行えるよう声掛けしている。 2.手伝いが必要な方は職員が一部介助行っている。 3.定期的に訪問歯科を利用し、口腔ケアの指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間ごとの声掛けや排泄パターンに合わせて誘導し、トイレでの排泄習慣を維持できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1.体調をみながら適度な運動、水分量や食事の工夫を行っている。 2.排便周期や排便状況を確認し、個々に応じた対応をしている。 3.便秘が続く場合は医師と相談し排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1.入浴時間は決まっているが、入浴剤や好みのシャンプーやソープを準備し、楽しく入浴できるように工夫している。 2.入浴が困難なご入居者に対しては、清拭や足浴などを行い、清潔保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1.居室やホールで自由に休まれている。 2.部屋の温度や湿度を管理し、快適に休めるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1.主治医から処方があった際は内容を確認し、記録に残し、申し送りを行い周知している。 2.調剤薬局の方が薬を配達した際に、状態報告や薬の説明などを受け、その後職員間で共有している。 3.症状の変化を職員間で共有し、主治医に報告行い連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1.毎月季節に合わせた企画や行事を考え、ご入居者に楽しんでいただけるよう工夫している。 2.軽体操や歌などそれぞれが好きなことをケアプランに反映し、気分転換も支援を行っている。 3.洗濯物たたみや清掃などご入居者の出来ることを役割として行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1.ホーム周辺を散歩したり、お花見ドライブなどの企画を立て外出支援を行っている。 2.ご家族の協力のもと、お墓参りや外食、自宅への外泊などの機会も増えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1.認知症の進行に伴い、金銭管理が難しくなり紛失事故やトラブルを防ぐため、ご入居者、ご家族の同意のもと事務所で預かり管理している。 2.お金が必要な時はいつでも渡して使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1.ご入居者からの要望があった場合は職員が代わりにご家族に連絡し、電話をつなぐようにしている。 2.毎年、ご家族に宛てた年賀状を書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1.ホールの壁面に季節に合った飾りを施し、春夏秋冬を感じてもらえるよう工夫している。 2.室内の温度や湿度などはエアコンや加湿器などで調節し、快適に過ごせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや席の配置を工夫し、一人でゆっくり過ごしたり、仲の良いご入居者同士で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている （グループホームの場合）利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	1.全部屋個室になっていて、プライバシーは確保されている。 2.使い慣れた日用品や好みの物、家具や写真などを持ってきていただき、ご本人や家族と相談しながら配置なども工夫し、その人らしい生活ができるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1.歩行がスムーズにできるよう建物内はフラットな床や手すりをつけ、障害物を無くし安全に配慮している。 2.トイレや浴室、居室などわかりやすく看板をつけ案内を表示している。		